



展示 PICK UP

■3F エレベーターホール

～7/17(日)

1階特別展 鹿島茂コレクション2『稀書探訪』の旅 関連展示

旅と本と機内誌と



▲鹿島茂連載『稀書探訪』第1回「パリ ボン・マルシェ・デパートのアジェンダ」(『翼の王国』2007年4月号)



▲日比谷エアポート滑走路の上空を飛ぶジェット機

今回の特別展がANA機内誌『翼の王国』の連載『稀書探訪』から生まれたことから、図書フロアでは「機内誌」に注目し、『稀書探訪』が連載された当時のバックナンバーをはじめ最近の機内誌や、機内誌の連載から生まれた書籍、そして旅や飛行機の本などが並びます。また航空業界ではCO₂排出量削減のため様々な取り組みが進められていますが、紙の時刻表が廃止となったり、機内誌が紙冊子からデジタルに切り替わる動きもあり、空の上の加速したデジタル化も感じながら、空の旅気分でお楽しみください。(協力:航空図書館)

7月の展示情報

※展示情報は変更する場合がございます。

2F
パープル
ゾーン

「千代田文人物語 ～町名由来板が導く文化の系譜～」(～7/15)

区内に設置されている町名由来板に書かれた文人たちと、その一部の執筆を手がけた現代の作家たちに焦点を当てました。彼らの作品や関連図書から、「文人」や千代田のまちの文化に触れてください。

2F
パープル
ゾーン

三角台

1階特別展「鹿島茂コレクション2 『稀書探訪』の旅」関連展示 (～7/17)

7月17日まで開催中の特別展と併せて鹿島茂氏の著作を展示しています。また、美術や文学を中心に19世紀のフランスについての本もご紹介します。フランスの稀少な本の世界をご覧いただける特別展と共に、是非お楽しみください。

3F
ブルー
ゾーン

「深夜感覚 真夜中～夜明け」(～10/14) NEW!

深夜だからこそ話したいこと、食べたくなるもの、観たくなる映画。そんな真夜中の特別な感覚を「深夜感覚」として表現し、本を集めました。皆さんの「深夜感覚」と照らし合わせて楽しんでいただきたい展示です。

3F
グリーン
ゾーン

「緑の本棚」(～9/16)

自然や生命を象徴する色である「緑」。見る人の心を穏やかにし許容や安心感を与えるこの色は、許可や安全を示すサインにも使われます。日本では青と同一視もされてきたこの色が一体どのような色なのか、連想される様々な事柄から新たな「緑」を再発見する展示です。

▶▶▶入館の際は、手指消毒・検温、マスク着用のご協力をお願いいたします。

■2F エレベーターホール

～7/29(金)

ありがとう 岩波ホール

今年7月、54年の歴史に幕を下ろす岩波ホール。これまでに270作品以上の映画を上映し、映画の街・神保町を支え、ミニシアターの草分け的存在として全国の映画館文化に影響を与えてきました。この度の閉館を受け、岩波ホールの歴史を振り返ります。(協力:岩波ホール、千代田図書館)

■ 第1幕 岩波ホールのはじまり

1968年開館当時の活動について支配人・岩波律子氏の思い出エピソードを交えて紹介。(千代田図書館で4月25日～5月21日に開催した展示「ありがとう 岩波ホール[第1部]」と同じパネルです。)

■ 第2幕 監督・映画・映画館 関連図書

岩波ホールについて、そして関わりの深い監督や映画の原作などが並びます。



『岩波ホールと映画の仲間』

- 高野悦子 著
- 岩波書店
- 2013年

『眠る男 大いなる記憶』

- 上毛新聞社 編
- 群馬県人口200万人 記念映画「眠る男」製作委員会
- 1995年



■ 第3幕 上映作品のパフレット

岩波ホールよりご寄贈いただいた約240冊が一室に並びます。(上映された作品のすべてではありません。館内閲覧のみ。)

千代田図書館では「ありがとう 岩波ホール[第3部]」及び「歴代上映作品 観客動員ベスト10」を2022年6月27日～7月23日に開催しています。

書架探訪

日比谷図書文化館では、パープル、オレンジ、グリーン、ブルーの各ゾーンの書架に大小様々なコーナーを設けています。この記事では、館内各所の特色ある書架をご紹介します。

【Librarian's Pick】

ライブラリアンズピック



パープルゾーンを除く各ゾーンの入口脇に「Librarian's Pick」という、小さな展示スペースがあるのをご存じですか?このスペースは、スタッフが交代でテーマを決め、それに沿った資料を各ゾーンの書架から選んで展示しています。季節の話題や個人的な関心事から時事問題まで、幅広いテーマを扱っています。数は少ないですが、意外な資料が展示されていることもありますので、ぜひお立ち寄りください。

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

リニューアル! 常設展示室

● 入 場 無 料 ●



2022年3月26日、常設展示室はこれまでのテーマをそのままに、一部の展示資料や構成などが新しくなりました。千代田区は、将軍徳川家康による江戸城築城および城下町の整備から現在に至るまで日本の中心都市として栄えてきた場所です。1階の常設展示室では「江戸・東京の成立と展開」を総合テーマに旧石器時代から近現代までの歴史を5つのテーマにわけて、様々な資料や映像などで紹介しています。ぜひリニューアルした常設展示で千代田区の歴史をたどり、現在の姿と重ねてみてください。

NEW 1

遺跡から分かる地形とくらしの関係

「発掘されたくらしと環境」

千代田区では旧石器時代から古墳時代までの先史時代の遺跡が発見されています。I室「発掘されたくらしと環境」は当時の人々が自然環境に適応しながら暮らしていたことを新しい調査成果と共に紹介しています。

◀常設展示室は千代田区の地形を知るところから始まります。

NEW 2

庶民の文化にも注目!

「江戸から東京へ」

江戸時代に花開いた出版文化は、今でも神保町の古書店街など千代田区の文化として引き継がれています。IV室「江戸から東京へ」は出版物をテーマに江戸の人々の生活や文化を解説しており、新しく設置された「絵草紙屋」の再現模型や切絵図、戯作、瓦版などを見ることができます。

◀タイムスリップしたような「絵草紙屋」の再現模型。

NEW 3

近現代の千代田区にも注目!

「まちの歴史」

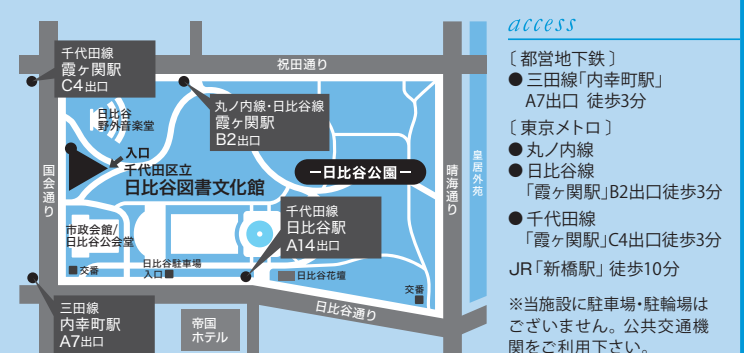
明治を迎えると交通網の整備や煉瓦造りの建造物の登場などまちの姿も次第に変化していきます。V室「まちの歴史」では、現代の千代田区へとつながるまちの姿の移り変わりを貴重な写真や資料と共に紹介しています。

◀中央は北の丸公園から出土した煉瓦の実物資料。

calendar 開館時間:平日10時～22時 ■土曜10時～19時 ■日祝10時～17時 ■休館日

2022年 7月							2022年 8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31			

! 掲載されている内容について変更や中止となる場合があります。最新情報は、ホームページ等をご確認ください。



7・8月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

7/7 (木)他 <日比谷オペラ塾> 日本ロッシーニ協会会長・水谷彰良が語る短期集中講座(全2回) ベルカント・オペラの特質とその終焉 ～ロッシーニからベッリーニとドニゼッティへ～

講師：水谷 彰良(日本ロッシーニ協会会長)
日本ではロッシーニ、ベッリーニ、ドニゼッティの歌劇が“ベルカント・オペラ”と一括りにされますが、ロッシーニとその後継者とは、声と役の関係性、音楽の様式、ドラマトゥルギーが歴然と異なります。この講座ではベルカントの特質を歴史的見地で明らかにし、ベッリーニとドニゼッティがロッシーニの様式を脱して、ロマンティックな歌劇に移行するプロセスを検証します。
(主催：フェニーチェ劇場友の会、共催：日比谷図書文化館)



ジョアキノー・アントーニオ・ロッシーニ (1792-1868)

- 日時：前編：ベルカント・オペラとは何かーロッシーニの作品から 7月7日(木)14:00～15:30(13:30開場) 後編：ベッリーニとドニゼッティーイタリア・ロマン派歌劇の誕生 7月21日(木)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：各回60名 ■参加費：各回1500円

7/9 (土) 千代田区民講座 今こそ二宮金次郎の報徳仕法を

講師：武田 祐樹(株式会社 映画二宮金次郎製作委員会事務局)
様々な災害により人口が減少し、経済が低迷していた江戸後期。その中で登場したのが二宮金次郎です。この講座では、二宮金次郎が荒地を蘇らせて復興に導いた“仕法”についてお話します。
(主催：NPO法人 神田雑学大学、共催：日比谷図書文化館)



- 日時：7月9日(土)14:00～15:30 (13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名
- 参加費：無料

7/27 (水) 江戸歴史講座 第75回 江戸怪談の世界をひも解く

講師：滝口 正哉(立教大学文学部特任准教授)
各地から人や情報が集まる巨大都市江戸では、武家や町人の中でさまざまな怪談が飛び交っており、怪談の宝庫といっても過言ではありません。今回は「番町血屋敷」伝説や七不思議、番町・駿河台の旗本や神田の町人などが耳にした怪談について、当時の資料をもとにご紹介したいと思います。



葛飾北斎「百物語 さらやしき」

- 日時：7月27日(水)19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員：100名
- 参加費：1000円(千代田区民 500円)

<参加申込>電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

7/28 (木) 変化の時代と「平民宰相 原敬」 ー明治維新、大正デモクラシーから現代へ

講師：清水 唯一朗(慶應義塾大学総合政策学部教授兼大学院政策・メディア研究科委員)
100年前、日本は政治熱の高まりと第一次世界大戦による激変に晒されていました。帝国の時代が終わり、民主主義の時代がはじまります。この舵取りに当たったのが「平民宰相」原敬です。彼らは何にどう取り組んだのでしょうか。そこから現在に至る日本政治の長所と短所を理解する入口を見出していきます。



原敬総裁 生前最後の写真 大正10年(1921年) 川村数郎述『一山秘話』/1929年 (日比谷図書文化館 特別研究所蔵)

- 日時：7月28日(木)19:00～20:30 (18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：40名
- 参加費：1000円

7/30 (土) 翻訳者が語る 世界文学への旅2 現代ロシア語文学の多様性

講師：沼野 恭子(東京外国語大学総合国際学研究院教授)
ロシア語で書かれた現代小説のうち、ロシアのリュドミラ・ウリツカヤ、ボリス・アクーニン、ウクライナのアンドレイ・クルコフ、ペラルーシのノーベル文学賞作家スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチらの作品の特徴や魅力について、またこれらの作家たちが今回の「プーチンの戦争」を含め現代社会をどう捉えているのかお話しします。



ペンギンの憂鬱 アンドレイ・クルコフ/著、沼野恭子/訳 『ペンギンの憂鬱』(新潮社刊)

- 日時：7月30日(土) 14:00～15:30 (13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■定員：100名 ■参加費：1000円

8/2 (火)他 <日比谷オペラ塾> ジェンダー視点から見るモーツァルト(全2回)

講師：森岡 実穂(中央大学経済学部教授)
2つのモーツァルトのオペラを題材に、オペラ演出を見る上で役立つ基本的なジェンダーに関する視点を学び、それが作品解釈にどういう拡がりを与えているかを検証します。
(主催：フェニーチェ劇場友の会、共催：日比谷図書文化館)



ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

- 日時：前編：「家族」を最小単位として～『魔笛』と家父長制の力 8月2日(火)19:00～20:30(18:30開場) 後編：「女はこうあるべき」？～『コジ・ファン・トゥッテ』と性規範 8月17日(水)19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：各回60名 ■参加費：各回1500円
- ※2月13日(日)・27日(日)の講座が延期されたものです。

8/20 (土) 古書で紐解く近現代史セミナー第41回 コスモポリタン・ハルビンーハ爾濱の近代をたどるー

講師：長谷川 怜(皇學館大学文学部国史学科 助教)
19世紀末、ロシアによる東清鉄道建設に伴って満洲(中国東北部)に建設されたハ爾濱(ハルビン)は、交通の要衝であり、また北満洲の経済の中心地でした。アールヌーヴォー風の建築に彩られたコスモポリタンなこの街の歴史をロシア・中国・日本の3か国との関わりに着目し、多数の画像を用いながら解説します。

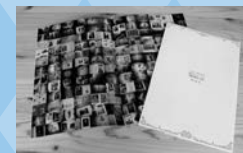


ハ爾濱 ソフィスカヤ聖堂 (個人蔵)

- 日時：8月20日(土)14:00～15:30 (13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名
- 参加費：1000円(千代田区民・学生500円)
- ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

特別展 開催中!～7/17(日)まで!

約200㎡の決して広くない特別展示室に並べられた「稀書」。その光景には誰もが圧倒されるのではないのでしょうか。それも「収集という名のデーモンに心身を乗っ取られた」と語る鹿島茂氏のコレクションの一部ということにも驚かれることでしょう。2007年、ANAの機内誌「翼の王国」で始まった連載「秘書探訪」は12年ものあいだ続き、紹介された古書は実に144冊に及びます。今回の展覧会では、掲載された144冊全てをご覧いただけると共に8つのカテゴリに再編集されて展示しています。19世紀を中心とする地誌・風俗画、風刺画の入った新聞、ロマン主義時代のイラストレーターによる挿絵本やモードのグラフィック資料などは私たちが19世紀へと誘うようです。この機会に貴重なフランス稀少書の世界をご堪能ください。



ご来場の際に冊子をお渡ししています。 ※入場された方へのお渡しのみとなり、郵送など承っておりません。

【予告】 100年後も手に取れる本に ～内田嘉吉文庫修復報告2022～

2021年度、日比谷図書文化館特別研究室は内田嘉吉文庫を中心に22点の所蔵資料の修復を行いました。19世紀の大型地図書や戦前期の旅行案内、折本の写真集など様々な種類の資料が安心して手に取れるよう修復されました。書籍修復家による創意工夫を凝らした修復過程の記録を公開し、修復された資料を展示します。



『朝鮮鉄道史 第一巻』(朝鮮総督府鉄道局編/1929年)

- 主な展示図書(予定) 『朝鮮鉄道史 第一巻』(1929年) 『満蒙と満鉄』(1926年) 『太平洋問題』(1927年) 『Struggles and experiences of a neutral volunteer 2』(1872年)ほか
- 期間：2022年7月19日(火)～9月30日(金) 会期中展示替えがあります。 ※休館日：8月15日(月)、9月19日(月)
- 開室時間：平日10:00～20:00、土曜10:00～18:00、日曜・祝日10:00～16:00
- 会場：4階特別研究室 ●入場無料

今年も、日比谷図書文化館では七夕の笹を飾っています。短冊もご用意していますので、皆さんの素敵なお祈り事を書いて笹に結んでください。飾られた短冊は、日比谷花壇を通じて国宝に指定されている宮城県仙台市の大崎八幡宮へと奉納されます。あわせて、受付・コンシェルジュによる七夕飾りの紹介もしています。 ★場所：1階エレベーターホール ★期間：～7月7日(木)

千代田区立図書館からのお知らせ 小学校3～6年生対象●夏休み子ども向け企画!

- 千代田図書館 【千代田図書館で学ぼう!夏のわくわく課外授業】 専門家が先生になってユニークな授業を行います。(抽選制、参加費無料)
- 四番町図書館 【四番町図書館 夏のジュニア塾】 哲学、歴史、物語の書き方などを、遊びながら学べるイベントを行います。(抽選制、参加費無料)
- ① 考えるって楽しい!「てつがくカード」 7月22日(金)14:00～15:30
- ② だれでも40分で書けちゃう!?「ショートショートを書いてみよう」 8月9日(火)14:00～15:30
- ③ 昭和のくらしから学ぶこと「戦争と子どもたち」 8月10日(水)14:00～15:30



▶どのイベントも7月6日(水)午前10時から申込受付開始!詳しくは図書館ホームページをご覧ください。→ <https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/>